

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|-------------------|------------|------------|
| 事業所番号 | 0172901233 | | |
| 法人名 | 有限会社 つながり | | |
| 事業所名 | グループホームつながり | | |
| 所在地 | 旭川市北門町9丁目 2644-36 | | |
| 自己評価作成日 | 2010年9月10日 | 評価結果市町村受理日 | 平成22年11月9日 |

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

| | |
|-------------|---|
| 基本情報リンク先URL | http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0172901233&SCD=320 |
|-------------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|----------------------------|--|--|
| 評価機関名 | 社会福祉法人北海道社会福祉協議会 | | |
| 所在地 | 〒060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目1番地 | | |
| 訪問調査日 | 平成22年10月19日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設の向かいには教育大学。近くに緑道。スーパー、ドラッグストア、衣料品店もあります。地域社会そして自然との触れ合いを大切にしながら「食べることは生きること」「最後までトイレで……」にこだわり、その方の思いや願いに寄り添って、生き甲斐のある生活(人生)の支援をさせて頂いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者一人ひとりの人格と尊厳を大切に、希望と生きる意欲を持ち、笑顔で暮らし続けるための支援を行っている。利用者や家族とともに地域交流を盛んに行い、正面に大学、近隣に保育園があり、商店や住宅に囲まれた立地となっている。ボランティアの訪問や大学のサークル活動で演奏会、保育園児のお遊戯、バイオリンのコンサートなどが事業所内で披露され、利用者の楽しみとなっている。また、2階の空きスペースを地域の活動、会議、集会に活用してもらうなど、広く地域にも貢献している。利用者がいつも笑顔で、一緒に楽しく暮らせるように、常にケアの質の向上を目指し、日々努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|----|--|---|----|--|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19) | ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12) | ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | |

自己評価及び外部評価結果

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-------------------|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I.理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | 1 | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 地域密着サービスの意義を職員全体で確認。施設理念「生きていてよかった」のもと、チームケアを重視し、より良い介護サービスに向けて実践している。 | 『生きていてよかった』という理念をロビーに掲げている。その横には開設者が立ち上げた時に作成した、福祉に関わる心得を網羅した「つながりのお約束」を添えている。管理者と職員は、その理念を共有し実践につなげている。 | |
| 2 | 2 | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 散歩や買い物に出かけて挨拶をかわしたり、旬の野菜、山菜が届けられたりと自然な形で交流している。 | 近隣の保育園児のお遊戯披露、大学生の演奏会、ボランティアの訪問、地域住民との会議や行事を通して交流を行い、日常的に地域に溶け込んでいる。また、他のグループホームとの交流もある。また、事業所で研修会を開催し、地域住民に参加を呼びかけ、多くの出席がある。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 地域の方の介護相談に応じたり、町内の集まり等の機会を活用し認知症の方への理解を求めている。 | | |
| 4 | 3 | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている | 検討或いは勘案事項については、話し合いを継続し、深め、サービスの質の向上に努めている。 | 運営推進会議は定例開催を継続している。会議には、利用者、家族のほか、地域包括支援センター職員、町内会長、民生委員、地域住民も参加し、活動報告や意見交換を行い、活発に質問や意見が出され、個々の意見を記録している。会議後の報告も「つながり便り」に記載し、配布している。 | |
| 5 | 4 | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 市主催の研修会、説明会等に参加。認定更新時は利用者の現状等を伝えながら連携に努めている。 | 市には相談や問い合わせ、申請の手続きを行っている。また、地域包括支援センターとの情報交換、地域包括主催の研修会への参加等で行政関係者と積極的に連携を図っている。また、保護課職員の訪問もあり、相談や助言を受け、利用者の適切な支援につなげている。 | |
| 6 | 5 | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束廃止推進委員会を設置。廃止宣言を掲示。交代で研修会に参加。拘束しない介護に努めている。 | 身体拘束廃止推進委員会を設置し、身体拘束廃止宣言をしている。ケアの継続上どうしても必要な場面があり、職員は利用者、家族と十分に検討、説明を行い、理解を得て、止む無く手すりを4点設置したが、その後のケアの継続と職員の細かな見守りと声かけで現在は外している。玄関の日中の施錠もなく、車いす利用者の食事時の食卓椅子への移乗も行い、生活にメリハリをつけている。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 研修会に参加。言葉の暴力も含め虐待防止に努めている。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 現在成年後見制度の対象者はいないが研修会に参加し学んでいる。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 施設の運営方針、起こりうるリスクも含めて丁寧に説明。ご家族の理解、納得に努めている。 | | |
| 10 | 6 | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 面会時に情報交換。ささいなことでも言える雰囲気づくりに努めている。だされた意見は会議等で話し合い反映させている。又アンケートを実施。例えば個別レクに反映させている。 | 家族の面会が多く、職員は来訪時に積極的に声かけすることで家族との信頼関係づくりに努めている。利用者からは、毎年アンケートで直接希望や思いを聞く仕組みがあり、できるだけ思いが叶えられるよう取り組んでいる。 | |
| 11 | 7 | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 日頃から職員とのコミュニケーションを大事にすると共に、毎月のスタッフ会議の意見交換のなかで、気づきやアイデア等をだす機会を設け反映させている。 | 月1回定例開催する全体会議で、職員が意見や提案を率直に出し、利用者の生活の質の向上、事業所の運営に反映させている。職員の離職も少なく、慣れ親しんだ職員が多く関わっていることで、利用者の安心につながり、連携を図ることでケアに活かしている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 代表者は毎日施設に顔を出し、利用者、職員との関わりを持ち現状把握に努めている。今年度は就業規則を改正（職員に周知）。職員が働きやすい職場環境づくりに努めている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 職員の力量に応じて（希望を聞きながら）必要な研修受講の確保に努めると同時に研修報告を毎月の会議のなかで実施。全体のレベルアップを図っている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 他施設の見学、地域のGHとの交流。サービスの質向上に活かしている。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|------|---|---|--|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 事前面談の際に出来るだけ、本人の意向を聞き生活状況等の把握に努めている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 利用にあたっての経緯、苦勞されてきたこと、要望等を含めてよく傾聴。入居前にお茶の誘い、レク参加等の呼びかけを実施している。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | ご本人、ご家族の思いや希望を確認し必要な支援に努めている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 本人の思い、希望をよく知るなかで、それぞれが活躍できる場の設定。例えば一緒に調理、掃除。共に生活する場を築くよう努めている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 面会時に情報交換。ホーム便りの発行(個人欄を設けている)行事参加の呼び掛け。共に支えていく関係づくりに努めている。 | | |
| 20 | 8 | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 親しい人に会いに行く或いは来訪して頂く。美容院へ行く。喫茶店に行く。お墓参りに行く。その方にとっての馴染みを尊重し支援に努めている。 | 利用開始前の生活環境を大切に、家族の来訪が多くみられる。ドライブの途中で自宅に寄ったり、家族の協力で寺や墓参り、事業所の仲間の見舞いや通夜葬儀にも出席している。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 職員が調整役となり、気の合う方どうし過ごせる場面を設定したり、役割活動(例えば食事づくり)を一緒にするなかで支え合える関係づくりに努めている。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|---|---|---|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 来訪されたり、手紙等の交流がある。ご本人が亡くなられた後、ご家族がボランティアに来て下さる家庭もあり。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | 9 | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 日常生活のなか(関わりのなか)で思いや意向の把握に努めている。 | 基本のアセスメントシートで情報を収集し、介護認定更新後には再確認することで状況把握に努めている。日常のケアの中で利用者の細かな気付きを大切に、利用者の思いを見出すように努めている。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | どのような生活を送ってきたか?ご本人の今後の生活支援の為に把握に努めている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 23,24に同様把握に努めている。 | | |
| 26 | 10 | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | ご本人、ご家族の思いをよく傾聴。その事を大事にしながら毎月のスタッフ会議のなかで意見交換し介護計画に反映している。 | 利用者、家族の意向を尊重し、職員の日常の気づきを反映させた利用者本位の介護計画を作成している。計画作成者は会議で月の状況や記録、経過をまとめ提示し、職員とともにモニタリング、評価を毎月行い、目標達成時期には見直しを行っている。変更の必要があれば意見を反映し、現状に即した介護計画を作成している。 | 介護計画書の目標に対して、連動して記載する仕組みを構築し、今後は効果的に評価ができるように記載方法の検討が望まれる。利用者、家族、全職員が話し合い、気付きやアイデアを出し合い、現状に即した目標を見出し、それに沿った介護計画作成を期待する。 |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 「ケア日誌」「個別ケア記録」「受信記録簿」「連絡ノート」等に記載。情報を共有、話し合いのもと計画に活かしている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | ご家族宿泊時には食事の提供、ご家族会食時には場所の提供、又希望により施設内でご葬儀等の支援もしている。 | | |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 地域の民生委員の方が推進委員。出張理容を利用して頂いたり、買い物に出かけたりと支援している。 | | |
| 30 | 11 | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 事業所の協力病院の他ご本人、ご家族が希望する病院の受診、往診が出来るよう支援している。 | スタッフが同行してのかかりつけ医受診や、医療連携体制による健康観察を行っている。主治医との関係性も良く、受診時の報告や体調不良時の緊急対応、相談連携も取れている。 | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 31 | | ○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 施設内に看護師を配置(非常勤)その他協力病院とは医療連携。適切な受診、看護が受けれるよう支援している。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院によるダメージの防止。リハビリは施設で！！医療機関、ご家族と相談しながら早期退院の支援をしている。 | | |
| 33 | 12 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | ご本人、ご家族の意向を聞き、その上で医療機関と相談。施設としての支援方法を話し合い実施している。 | 重度化や終末期に向けた指針や方針を整備し、家族等から同意が得られている。以前、ターミナルケアの経験もあり、それを活かして現実に即した事業所での看取りの詳しい内容、確認、方法などのマニュアル作成の調整中である。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 年に1回消防署の方指導のもと救急講習会の実施。又夜勤時の対応の為マニュアルの整備をしている。 | | |
| 35 | 13 | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | H22年度は自衛消防訓練を2カ月に1回実施。春の訓練時は消防署指導のもと、地域、推進委員、ご家族の方にも参加を呼び掛けている。 | スプリンクラー、緊急通報装置を設置し、職員の救急救命等講習も終了している。義務付けの避難訓練のほか、2ヶ月に1度、自主避難訓練、非常時通報訓練も行い、夜間想定訓練も今年度中に全職員が終了の予定である。地域との協力体制についても構築している。 | |

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

| | | | | | |
|----|----|--|---|--|--|
| 36 | 14 | ○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | ご本人の思い、願いの把握。プライドを傷つけないようにさりげないケアをしたり、自己決定しやすい言葉かけに努めている。 | 利用者の尊厳を傷つけない言葉遣いや、人格を尊重したケアに努めている。個人の記録や写真の扱い、生活用品についても書面により使用同意を得ている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 一人ひとりの状態に応じた言葉かけを心がけたり、難聴の方にはホワイトボードでの筆談をしている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 基本的な1日の流れはあるが、その方のペースを尊重して支援している。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | ご本人のこだわり(スタイル)の把握。必要な支援を実施している。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|---|---|--|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 40 | 15 | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 週2回はクッキングの日。行事食の恵方巻き、おはぎづくり始め日常的にも希望者は職員と一緒に作業をしている。 | 献立は職員が一週間ごとに行い、身体状況に合った食事の提供も柔軟に対応している。職員と一緒に食事が、一日の楽しみの時間となっている。外食の機会や出前、行事食等で変化も付けており、水曜と日曜日は、その日に献立を決め利用者選択の昼食となっている。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 水分確保が必要な方の支援。きざみ食、ミキサー食での対応。一人ひとりの1日の摂取量の把握に努めている。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 口腔ケアの重要性を認識。ご本人の出来ない部分への支援をしている。 | | |
| 43 | 16 | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 居室にトイレがあり「最後までトイレで！！」にこだわり必要に応じて支援している。 | リハビリパンツやパットの利用となっているが、トイレ排泄を基本に排泄パターンを把握し、声かけ誘導を頻回に行っている。体調不良で入院した際は、回復退院後の排泄の自立に向けた支援を積極的に行い、成果を上げている。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 排泄パターンを記録。水分確保、軽い運動(例えば体操・散歩)等個々に応じた予防対策をしている。 | | |
| 45 | 17 | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 熱いお湯が好きの方、ぬるいお湯が好きの方、仲の良い方どうしの入浴。希望を聞きながら支援している。 | 週3回入浴の機会を設け、看護師と二人介助で安全な入浴支援を行っている。また、夏場の暑い時期や身体状況に合わせ、適宜柔軟に対応している。今後は、高齢、重度化に向け、より安全な個別浴槽設置を検討している。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 心地よい眠りの確保に向けて24時間の生活リズムづくり。活動と休息を考慮して支援している。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 看護師が中心となり薬変更時は連絡ノートで回覧。個別服薬綴りがあり目的等を職員も把握して服薬支援している。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 一人ひとりが力を発揮出来るような仕事をお願いしたり、希望を聞きながら施設外ランチ・レクの実施。施設内コンサートも実施。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 49 | 18 | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | アンケートをとり個別レクを実施したり、ご家族の協力を得て外出支援をしている。 | 散歩や買い物を中心に、日常的に外出の機会を多く作っている。事業所前で近隣住民と一緒に焼き肉パーティーを開催したり、オーナー所有の菜園で野菜づくりや収穫に関わり、外気浴をしている。ドライブや喫茶店でお茶、冬場は大型スーパーのショッピングを楽しんでいる。家族の協力で一緒に出かけられるよう声かけもしている。 | |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 自分でお財布を持つ事は、ご本人の安心や満足にもつながるので、ご家族と話し合いのもとその方に応じた支援をしている。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | その方に応じた支援をしている。 | | |
| 52 | 19 | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 5感刺激への配慮をしながら、居心地良く過ごせる空間づくりに努めている。 | リビングには畳敷きのスペースがあり、演芸等多様に活用している。掃除も行き届いており、清潔感があり、温度調整や湿度の管理も適宜行っている。利用者にとって、憩いの場として職員と心地よく過ごす場となっている。廊下には季節の花を掛け、利用者の作品や行事の写真を展示し、思い出を語るきっかけとなっている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 玄関前にベンチ、食堂、廊下のコーナーにソファ、椅子をおいて工夫している。 | | |
| 54 | 20 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 寝具、タンス、鏡台、写真等思い出の品々が持ち込まれその方らしい居室となっている。 | 利用者は使い慣れた家具や好みの生活用品を持ち込み、思い出の品や写真等を飾り、その人らしい居室となっている。居室は大変広く、入り口には表札を掛け、個人の住居となっている。トイレ、流し台、洗面所も設置し、一人ひとりの能力に応じ、使いやすくなるような工夫もしている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 利用者さんの状態に考慮して、手すりを増設したり、トイレドアをカーテンに変更したり安全な環境づくりに努めている。 | | |